



かわにし

精華町立川西小学校

検索

学校だよりはHPで
カラーで見れます

めざす児童像

よく学び 心豊かで 元気な子

精華町立川西小学校 学校だより

令和8年2月27日 3月号

感謝の気持ちを伝えた!

校長 竹花 真治



2月20日(金)6年生を送る会が行われました。当日に向けて、5年生が中心に、下級生全員で役割を分担してこの日を迎えました。間もなく最高学年になる5年生は、準備にそして当日の進行に、大活躍。各学年からの発表も、送る会の一番の目的である「6年生ありがとう」の気持ちをしっかり伝えることができました。

それを受けた6年生の発表もすばらしかったです。子ども達の「心」を感じる、温かな会になったと思います。多くの保護者の方々、参観に来ていただき、ありがとうございました。



気持ちを伝えた!6年生の発表

また当日は、地域で登下校を見守ってくださっている方々を、6年生が招待しました。暑い日も、寒い日も、毎朝自分たちのために安全指導をしてくださった方々に、手作りの招待状を渡し、発表時の呼びかけで、感謝を伝えました。6年生には卒業を前に、自分の周りには、家族をはじめ、地域の方々等、数多くの方々の支えがあったことに気付いてもらいたいですし、そのことに「感謝」できる心を持ってもらいたいと思っています。

来週からいよいよ3月です。この一か月、学習面・生活面をしっかりとまとめ、子ども達が力をつけて今の学年を修了し、希望をもって次の一歩が踏み出せるよう、教職員一同、最後まで全力で支援してまいります。

2月のかわにしアルバム よく学び 心豊かで 元気な子 を目指して!

心 1年生 昔遊び体験 5日、1年生は昔遊び体験を行いました。当日は、校区内の民生児童委員の方々や、保護者の方々にサポートしていただきながら、けん玉やお手玉、だるま落としなどを楽しみました。日本の伝統的な遊びの素晴らしさを感じるとることができたと思います。



けん玉むずかしい!

2年生 おもちゃランド学 6日、2年生は生活科の学習で「おもちゃランド」を開催! 1年生を招待し、自分たちで作った手作りおもちゃで、1年生を楽しませました。遊び方を丁寧に説明したり、見本を見せたり、準備してきたことを発揮することができた1時間となりました。



見本を見せる2年生

2月もがんばる子どもたち!

保護者アンケート集計結果

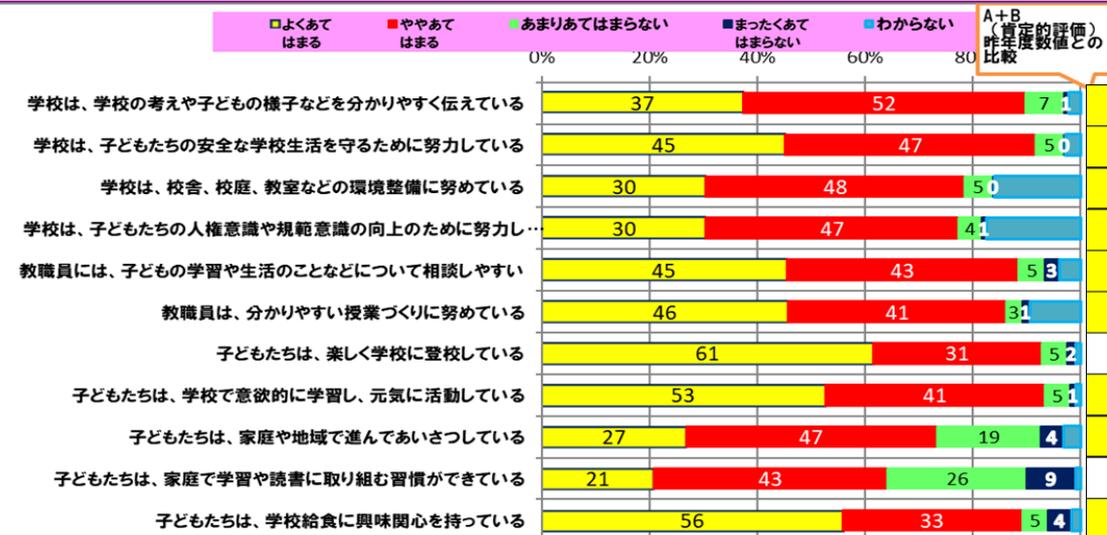
1月下旬に実施いたしました、保護者アンケートの集計ができましたので、報告させていただきます。

多くの方々にご協力いただき、回収率は約80%近くとなり、保護者の皆様の本校教育に対する高い関心と期待の表れと受けとめています。改めて、アンケートの回答・提出にご協力いただきましたことに、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。(たくさんのご感謝・激励の言葉もいただきありがとうございました。励みになりました。)

さて、本年度も11の項目に対し、4段階(+わからない)で評価していただきました。学校での活動に関わる内容について、約80~90%に近い、A Bの評価を頂きました(わからないを省く)。本校の教育活動や学校運営に對しまして、「おおむね満足をいただいている」と肯定的に捉えさせていただきます。

昨年度との比較の中では、多くの項目で、数値が向上していました。ただ、記述回答の中には、改善すべき点や方向性を示す言葉もいただきました。保護者の皆様を感じられたことを学校としても受け止め、子ども達の成長点や課題面を職員で総括しながら、今後の教育活動・学校運営に考慮し、保護者の皆様から信頼され魅力ある学校づくりに努めていきたいと考えています。

改めて、学校と保護者・地域が連携し、意思疎通(情報交流・共有)しながら教育活動を進めていくことが大切であると感じました。今後も「連携」を大切に学校運営を進めていきます。多数のご意見、ありがとうございました。



アンケート結果より

○安全な学校生活

学校が子ども達にとって「安全な場」となるよう、登下校の交通安全、防犯対策・熱中症対策、地震や大雨・雷への対応、休み時間の遊びや廊下歩行、給食の対応等の取組を、保護者や地域の方々との連携をとりながら、今後も進めていきたいと考えます。

○人権意識や規範意識の向上

前年度より、かなり高い評価をいただきました。学級・学年の中での仲間づくり、全校でのなかよし班遊び等を活用し、今後も子ども達のつながりを作っていくたいです。人権週間や、事が起こった時の指導も大切に、子ども達のコミュニケーションの力を、これからも高めていきたいと考えます。

○挨拶も評価が高まりましたが、さらに高まるよう、学校・家庭・地域が連携して、子ども達に声をかけていきましょう。

○家庭学習、読書 数値は変わりませんでした。読書週間等の取組を充実させたり、自主学習が効果的にできるような指導の中で、家庭での「学びに向かう姿勢」が高まるよう、指導を進めていきたいと考えます。

3月の行事予定

3月の行事予定			下校時刻									下校時刻					
日	曜日	行事	1年	2年	3年	4年	5年	6年	日	曜日	行事	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1	日								16	月	水曜5時間						14:05
2	月	水曜5時間							17	火	水曜5時間 地域児童会 給食最終日						14:05
3	火	全校朝礼	14:30				15:20		18	水	短縮3時間(5年短縮4時間)			11:15		12:00	11:15
4	水	ボン菓子作り(5年)					14:05		19	木	卒業証書授与式					11:15	11:00
5	木			14:30			15:20		20	金	春分の日						
6	金		14:30				15:20		21	土							
7	土								22	日							
8	日								23	月	短縮3時間 大掃除			11:15			
9	月	水曜5時間					14:05		24	火	短縮3時間 修了式 ライトダウンデー			11:15			
10	火	水曜5時間					14:05										
11	水	人権の日					14:05										
12	木	水曜5時間					14:05										
13	金	水曜5時間					14:05										
14	土																
15	日																

●令和8年度1学期の主な行事予定について

4月

- 8日(水) 着任式・始業式
- 9日(木) 入学式
- 23日(木) 全国学力テスト(6年)
- 20日(月)～24日(金) 個別懇談

5月

- 14日(木)～15日(金) 修学旅行(6年)
- 22日(金) 授業参観

6月

- 4日(木)～5日(金) 林間学習(5年)

7月

- 10日(金)～15日(水) 個別懇談会
- 17日(金)・・・終業式

「生きてるだけで100点満点」～命について考えた1時間～

2月9日、6年生は助産師の小西先生による授業を受けました。小西先生には昨年もお来校いただき、「命の大切さ」をテーマに、命の誕生から赤ちゃんが生まれるまでの過程や、その時の家族の喜びについてお話しいただいています。

授業の最後、先生はいつも子どもたちにこう語りかけます。

「生きてるだけで100点満点」「産まれてきてくれてありがとう」

そこに「命」があるだけで、周りの喜びとなる。先生の熱い言葉に、私はいつも感銘を受けています。それと同時に、「生と死」に関わって、子どもたちに常に命を大切にすることを認識させなければと、改めて考えさせられます。



失われる命と、自ら絶たれる命について

今年度も、地震や自然災害によって多くの方が突然命を失われました。また、身勝手な理由で他人の命が奪われる事件や、火災、交通事故など、思わぬ状況で死を迎える痛ましいニュースが連日報道されています。(世界に目を向ければ、戦争も同様です。) 死がいつ訪れるかは誰にもわかりませんが、それらとは一つ違う死の迎え方があります。それは「自殺」です。

先月、令和7年の日本における自殺者の総数(警察庁の暫定値に基づく厚労省のまとめ)が報道されました。様々な対策によって減少傾向にあるとはいえ、昨年は約1万9千人の方が自らの命を絶っています。気がかりなのは、数年前まで300人台で推移していた小・中・高生の自殺者が、昨年・一昨年と全国で500名を超えていることです。(昨年の小学生の自殺者数「15人」という数字には、驚異的なものを感じます)

人生には楽しいこともあります。多くの苦しみや悲しみ、苦悩にぶつかり、その困難を乗り越えながら生きていかなければなりません。しかし、困難を乗り越えることで逞しさや優しさを身につけ、喜びや希望のある人生を築きあげていけるものだと私は思っています。困難を乗り越えるための方策はいくつかあるはず。健康問題など、解決が難しいこともあるかもしれませんが、だからこそ、自ら命を絶つという選択は避けるべきだと考えます。なぜなら「自殺」という死は、多くの人に悲しみを残すだけでなく、身近な人々の心に深い傷をつけることになるからです。自分の命は自分のものであると同時に、多くの人に支えられた「掛け替えのないもの」なのです。(自殺でお亡くなりになった方、ご家族、関係者の皆様の心情は、察するに余りあります)

命に「リセットボタン」はない

ゲーム全盛期の現代、子どもたちの中に「死んだらまた何処かで生まれ変わる」という概念を持っている子がいるとの報道に驚いたことがあります。ゲームのキャラクターのように、命にリセットボタンはありません。私たち大人は、命に関わる大切な内容がたくさんあるにもかかわらず、子どもたちにあまり深く語っていない気がします。

- 命の終わりは死であり、その命は二度と蘇らないこと
- 人の命は、他の動物など多くの命を犠牲にして支えられていること
- 人の命の長さは、自らの意思では決められないこと
- 命の長さだけで、人の幸せは決まらないこと

この世に生を受けた者で、死と無縁の人は誰もいません。命には限りがあることをしっかり認識し、今という時間を大切にしながら「よりよい生き方をする」事について考えるのは、とても大切なことです。

身近な命の終わりを通して

私が小学生の時、家に「まーちゃん」という可愛い子犬をもらってきました。私が家にいる時はいつも側にいてくれましたが、数年経ち、まーちゃんは老衰により自宅で死を迎えました。ある日学校から帰ると、玄関でまーちゃんが横たわっていました。抱き上げるといつもの温かさは全くなく、死後の硬直で首も足もカチカチになっていました。その時の冷たさと重たさに、味わったことのない深い切なさを感じました。私にとってまーちゃんの死は、亡くなった命は二度と蘇らないことを真に悟り、深い悲しみを覚えた最初の経験だったかもしれません。



その後、私が4歳の時には父が亡くなりました。最期は病院のベッドの周りで、家族全員で看取りました。父の手を握りしめながら、最後の瞬間、指の先から徐々に冷たくなっていき、家族を見つめてそっと目を閉じていく父の姿は、未だに忘れられません。その4年後に亡くなった母の時は、朝、病院から連絡を受けて急いで駆けつけましたが、もう冷たくなっていました。最後の瞬間に立ち会えなかった無念の思いは、今でもあります。



100点満点の明日へ

家族の死を目の当たりにする事だけが、命について認識する機会とは思いませんが、身近な人の死や可愛がっていたペットの死を通して、「命には限りがある」「亡くなった命は二度と蘇らない」ことを、子どもたちには強く認識させたいものです。学校での様々な学習の機会を通して、自分の命はもとより全ての命の尊厳を感性として身に付け、生ある今を感謝しながら自分の人生を大事に生きていける子、言い換えれば「常に人権を尊重できる子どもたち」を育まなければならないと思います。そして、そのことを教える私たち教職員が、改めて「一人の子ども」を、「命」を大切にすることをもちながら、日々子ども達の支援にあたらなければと、考えさせられた1時間の授業でした。

明日も、元気いっぱい、命いっぱい子どもたちは登校してくれるでしょう。毎朝、笑顔で送り出していただいた子どもたちを教職員一同笑顔で待ち、100点満点の元気な挨拶を交わしたいと思います。



授業の中で、赤ちゃん人形を、優しく抱っこする6年生。その時は、とても優しい顔つきでした